

第7回日メコン経済大臣会合 共同声明（仮訳）
（2015年8月24日、マレーシア（クアラルンプール））

1. 第7回日メコン経済大臣会合は、カンボジアのパン・ソラサック商業副大臣と日本の宮沢経済産業大臣との共同議長の下、マレーシア・クアラルンプールで2015年8月24日に開催されカンボジア、ラオス、タイ、ベトナムそれぞれの商業大臣及び代表者、アセアン事務総長、日本メコンの産業界代表、ERIA 事務総長、JETRO 理事長が出席した。
2. 閣僚は、2015年7月4日東京で開催された、「新東京戦略2015」を含む、第7回日メコン首脳会議の成果を言及した。首脳が同戦略において言及したように、メコン地域の発展に向けて、各国独自の強みを生かし相互補完することによる産業高度化・バリューチェーンの強化を行う、周辺国との「Specialization & Collaboration」の考えを閣僚は再確認した。また閣僚は、メコン地域がアジア、さらには世界のバリューチェーンの中核となり発展することの重要性を共有した。
3. 閣僚は、「メコン開発ロードマップ」の成果と進捗につき言及した。その成果には、カンボジアでのネアックルン橋（つばさ橋）の開通、ラオスの国道9号線の改修、ミャンマー・タイ国境のミャワディーコーカレイ経路の完成及びカイ・メップ・チー・パイ国際港の工完等といったハードインフラの改善を中心とした、メコン地域の事業環境の改善が含まれる。閣僚は日本とメコン間の貿易投資の着実な進展に言及するとともに、メコン地域における日本企業の存在感の増加を歓迎した。さらに閣僚はJBIC、JETRO、JICA、HIDA、NEDO、ADB 及び ERIA を含む関係国際機関との協力により、これらが成し遂げられたことについて言及するとともに日本からの包括的な支援につき謝意を示した。
4. 閣僚は、JETRO による「第3回メコン・ビジネスニーズ調査」を高く評価した。調査によると、日本からメコン地域への海外直接投資が幅広い産業へ広がってきたとともに、活発な越境事業が拡大している。一方で、メコン地域における最適なバリューチェーンの構築に向け、特に事業環境の予測不可能さやバリューチェーンの低い生産性といった課題が指摘された。
5. 閣僚は、AMEICC 東西回廊ワーキンググループで議論された、「メコン産業開発ビジョン」を採択した。ビジョンは日本とメコンの中長期的な経済協力の枠組みであり、閣僚はAMEICC 東西回廊ワーキンググループに対して、ビジョンを実現するために詳細な「ワークプログラム」を策定し、第8回日メコン経済大臣会合で提出することを指示した。
6. 産業界代表は、第8回日メコン産業政府対話の議論を報告し、閣僚は産業界からのインプットに感謝を示した。産業界からのインプットには、官民が協力のもと、特に越境物流協定の着実な実行、コールドチェーン及びSME や人材育成等の産業リソースといった、ハードインフラとソフトインフラを向上していく、また継続的な公的資金支

援による高効率石炭火力発電等の発電インフラの導入により、高まる電力需要や気候変動に対応していくといった提案があった。

7. 閣僚は、第8回日メコン経済大臣会合を第48回 ASEAN 経済大臣会合と同時期に、ラオスにて開催することを確認した。